

午後 1 時 30 分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。定刻の時間となりましたので、平成23年3月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、最初に市長のあいさつ、その後、事業発表をいたしたいと思っております。質問につきましては、最初は事業発表についてお願いしたいと思います。発表に係る質疑の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したく予定しております。

終了は1時間後、14時30分を予定いたしておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 それでは、ちょっと早いですけれども3月定例会に向けての記者会見をさせていただきます。

特に前回は2月2日にありましたけれども、あのときはちょうど雪の対策の真ただ中でございまして、その後も引き続いて除雪対策、排雪対策を行ってまいりましたが、その後いろんな問題点、苦情等を受けながら考えてまいりまして、今日の3時からその会議を持つわけでございます。重ねまして除雪に当たって大変なご労苦をいただいた関係の皆さん方に感謝を申し上げますとともに、市民の皆さん方にも大変ご心配、またご迷惑をかけたことをここに改めておわびを申し上げたい、このように思うところでございます。

今年はずうど統一地方選挙の年に当たりまして、3月の議会も少し例年より早く始まるわけでございまして、今日はその3月議会に上程する予算等について説明をさせていただきたい、このように存じますので、ひとつよろしくお願ひいたします。

それでは早速でありますけれども、平成23年度当初予算の概要について説明をさせていただきます。

新年度の予算編成にあたりましては、社会保障関係経費の増加などにより財源確保が大変厳しい状況となる中でありますけれども、各種目的基金からの繰り入れ等で対応させていただきますとともに、さらなるコスト縮減に努めたところであります。また、4月の統一地方選挙を控え、骨格予算となりますけれども、継続費、債務負担行為の設定された事業や早期に予算措置を必要とする事業を計上し、住民生活に支障が生じないように留意したところであります。その結果、新年度の予算規模は前年度当初予算と比較して一般会計はプラス5.1%、全会計ではプラス4.4%の増加となったものであります。なお、広域連携大学整備事業など継続事業等による増加額を除いた場合には、一般会計で7.7%の減、全会計では2.4%の減となるわけであります。

当初予算の主な事業といたしましては、お手元に配付した資料のとおりでありますけれども、重点施策ごとに申し上げますと、「福祉社会の実現」では、新和・和久野保育園の民営化に向け、受託法人が行う新保育園整備に係る助成費や、市民文化センターのオストメイト対応トイレ改修工事費などを計上いたしましたところであります。

「風格ある市街地整備」につきましては、貴重な文化財建造物であります博物館建物の修復に向け、博物館建物修復検討会やワークショップの開催経費を、また駅周辺整備では、JR西日本が実施する敦賀駅舎のバリアフリー化に対する補助金及び「港まち敦賀」の玄関口にふさわしい賑わい交流拠点となる新駅舎整備の基礎工事費等を計上いたしました。

「消防、防災体制の確立」では、地域防災体制の強化を図るため自主防災会組織の育成に係る助成費のほか、防災情報等についてFMラジオ放送を通じ市民に幅広く周知、啓発を行うための所要額を計上いたしました。

「特色を活かした産業基盤の強化」につきましては、原子力分野等の教育・研究機能を有する福井大学附属国際原子力工学研究所の施設整備費及び敦賀港の利用拡大に向け、国際RORO船の輸送実験に係る所要額を計上いたしました。

「敦賀スタンダードの構築」につきましては、敦賀の歴史、文化、経済等、特色ある内容を折り込んだ独自カリキュラムの作成や、教員の資質向上など敦賀スタンダードの実践に係る経費や、さまざまな要因により学校生活に不適應を起こしている児童生徒の環境を改善するためスクールソーシャルワーカーを配置することとし、所要額を計上いたしました。

次に、平成22年度3月補正予算について申し上げます。

一般会計では、職員の早期退職に伴う退職手当や減債基金、公共施設維持補修基金、敦

賀っ子教育推進基金への積立金等を計上いたしました。また、道路整備や維持修繕など事業を前倒しで行う経済対策事業に1億9,637万3,000円を計上いたしました。

市立敦賀病院事業会計では、職員の早期退職に伴う退職手当、薬品費、診療材料費の追加補正等を計上いたしました。なお、先般ご説明させていただいたとおり、敦賀病院事業会計では医業収支の改善等により3月補正後において収支均衡の予算となったところでございます。

以上が3月議会に提案いたします予算の概要であります。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました23年度当初予算案並びに22年度3月補正予算案につきましての質問を賜りたいと思います。

最初に幹事社からどうぞ。

【記者】 電源三法交付金についてお聞きします。促進対策分が当初予算に計上されていないんですが、これはなぜですか。

【総務部長】 予算査定をする段階で、促進対策分がどういう形になるかというのがまだ見えておりませんでしたので、今回については促進対策分は全く当初予算には載せないという方針で、載せておりません。

【記者】 それは日本原電敦賀発電所3・4号機の工程とは何か関係があるのでしょうか。

【総務部長】 はい、あります。

【記者】 それはどういう関係があるんですか。

【総務部長】 日本原電敦賀発電所3・4号機につきましては、どこまで着工が延びるかははっきりしておりませんでしたので、はっきりした段階で、それがもし入ってくるということで協議した中で、できれば予算に盛りたかったわけですが、そういったことでまだはっきりしていなかったということでございます。

【記者】 ただ、日本原電が正式に発表したのは、たしか2月だったと思うんですが、その時点で要は来年度着工ということは明示されているわけですよね。ですからその時点で申請しようと思えばできたはずですけども、あえてそれを見送った理由というのはあるんですか。

【総務部長】 当初予算自体につきましては、査定は1月中に終わっております。その段階では、まだ先が見えていなかったということでございます。

【記者】 冒頭にご説明もありましたが、今回、骨格予算にもかかわらず、過去10年の中で1番、2番を争うような高い予算規模となっております。もう少しその辺をご説明をいただけないでしょうか。

【総務部長】 資料2の4ページを見ていただきたいと思います。骨格予算を組んだ年というのは15年度、19年度、今回の23年度ということですが、15年度も19年度もこのときには子ども手当というのはございませんでした。ですから16億円ほどはそこからもう既に今回は増えているという数字でまず見ていただきたいと思います。それに加えて、本来であれば新規着工になる場合であれば当初予算に載せないようなものというのが今回、債務負担行為ですとか継続費をもって22年度中に議会へかけて通っております。この分については持たざるを得ないということで、これは連携大学の14億7,000万円もそうですし、駅舎のバリアフリー化の補助金12億3,000万円もそうです。これを足しますと、この2つだけ足したといたしましても27億円になります。ですから現在の数字から27億円まず引いていただくのと子ども手当の16億円を引いていただければ、19年度ベースあたりと比較していただける数字になるのかなというふうに考えております。

【記者】 子ども手当が16億円で、新規着工、債務負担分、連携大学などを含めたのが27億円。合わせて43億円ですか。

【総務部長】 はい。

【広報広聴課長】 それでは、各社伺いたいと思います。

【記者】 骨格予算ということで、今後、骨に肉がつくわけですよね。肉の部分どのくらいなんですか。つけれる肉って何ですか。

【総務部長】 今はまだその分については査定をいたしておりませんのでわかりませんが、今までですと大体20億円前後が6月の補正予算として計上されております。

【記者】 歳入でお伺いします。今回、歳入で繰入金率が伸び率で409%と高い伸びになっているんですけども、これの理由と、あと昨年ですか不交付団体のほうに敦賀はなりまし

て、あのときはたしか法人税の落ち込みということで理由に挙げられたと思うんですけども、今回は若干伸びを見込んでいらっしゃると思うんですけども、その理由について教えてください。

【総務部長】 まず基金の関係の繰り入れでございますが、資料ナンバー2の12ページをお開きいただきたいと思いますが、まずエネルギー拠点化の関係で、広域連携大学の整備に14億7,000万円。これは基金のほうから繰り入れているということで、大きな額になりますし、また鉄道駅舎整備基金、これについても11億9,000万円ほど繰り入れている。この2つが大きな要因で増額しているというようなことでございます。

もう1点、収入につきましては、法人税関係につきましては今年度の収入の決算見込みを立てまして、それに基づいて来年度この程度ということで見込んでおりまして、今年度よりも少し多くなるかなという感じでございますが、予算上はその分が見込めるから持たせていただいたということでございます。

【記者】 補正のほうでちょっと教えていただきたいんですけども、職員の退職金なんですけれども、当初見込みが11人ということで2億6,000万円ですかね。補正で16人分増額。これかなり退職者が増えているような気がするんですけども、先ほど早期退職というふうにおっしゃっていましたが、これはどういうふうな退職者でしょうか。

【総務部長】 毎年大体3月ぐらいになりますと、私、退職したいということで早期退職の方が手を挙げられますので、その分を持たせていただいたということでございまして、大体毎年この程度のプラスアルファをさせていただいているものでございます。

【記者】 特に今年が多いとか、そういうことでは。

【総務部長】 はい。特に今年が、今3月補正で持たせている分が多いとかそういったことではございません。

【記者】 電源三法交付金のことなんですけれども、促進対策分が今回計上されなかったということなんですけど、多分、日本原電敦賀発電所3・4号機の遅れが明らかになったのが年末年始あたりだったと思うので、本来だったら計上されるというふうに見込まれていたと思うんですけども、その分はどこで補っているんですか。

【総務部長】 全体的な骨格予算というようなことで、全体的な歳出自体が少なくなったということもございまして、その分については一般財源で確保しているということでございます。

【記者】 具体的に、どこに充てる予定だったんですか。交付金分はどこに充てる予定だったんですか。

【総務部長】 今回持たなかった促進対策分について、どこに充てる予定だったかということですか。

一応、ほとんど6月補正のほうに送った分がほとんどでございます。

【記者】 査定の段階、1月中に査定しているんでしょうけれども、不適正経理のことで今回、決算も通っていませんけれども、それで査定段階で配慮した点とか。この額だけを見ているととても骨格には見えない。子ども手当とかそういうのがついているにせよ骨格には見えないんですけども、その辺の配慮は査定段階ではしてないんでしょうか。

【総務部長】 骨格予算ということでの配慮という点では、させていただいております。先ほど申し上げましたように、既に議会のほうで議決をいただいている債務負担行為とか継続費、こういったものが額が大きいということで、たまたまこの数字に積み上がったものでございますし、また4年前と比べても子ども手当で16億円からの数字が積み上がっているということでございますので、そのあたりはご理解をいただきたいと思ひますし、肉づけ予算は6月に今までと同程度は出てくるであろうというふうに考えています。

【記者】 ということは、この間の国土交通省の11月か年末のときに発覚したやつを踏まえた、反省を踏まえた組み方はしてないということですか。

【総務部長】 当然その分につきましては、そういった形で組ませていただいておりますし、これは22年のときにももう既に当初予算を組むときにもわかっておりましたので、22年度の段階から既にそういった形で組ませていただいております。

【記者】 22年度から不適正経理を知っていたということですか。

【総務部長】 21年度の段階に。

【記者】 じゃなくて、22年度予算を組む段階ではもう既にわかっている、市の方は。会計検査院は秋ぐらい、去年の秋に発覚、発表していますけれども、それ以前にわかっている

たということですか。

【総務部長】 21年度に県がもう既にありました。それは県で既に発表されています。なおかつ市のほうに、その分については今度入る予定のも聞いていましたし、もうその段階では国の建設事業に係る事務費についてもなくなるということが既に22年度の前算のときにはわかっておりました。その分については、そういった形で全部なくして組んでおります。

【記者】 骨格予算というお話なんですが、6月補正が前年並みの20億円を確保しているのであれば、これって本格予算なんじゃないんですか。要は肉づけ分が20億で前年とか例年並みであれば、本格以外の何物でもないでしょうと。何で骨格なのかというのが全然理由がわからないんです。

【総務部長】 ごめんなさい。20億円と言いましたのは、今までの骨格予算のときの6月補正分が、19年度ですとか15年度に、要するに4年ごとに骨格予算を組ませていただくのですが、このときの6月に持たせていただく分が大体20億円前後。ですから23年度も骨格ですから6月は20億円前後になるのかなというふうに先ほど申し上げたので、毎年毎年、要するに昨年もその前も20億円ずつ持っていた、そういう意味ではございませんので、よろしくお願ひいたします。

【記者】 そうすると、骨格分を今後20億円分プラスすると、一般会計ベースで290億円という過去十何年かで最高レベルの前算規模になるんでしょうか。

【総務部長】 4ページを見ていただきますとわかりますけれども、平成13年度、14年度の当初予算で280億円もう既に組んでおります。これに子ども手当がこのときございませんでしたから、ここで16億円を足していただきますと約300億円になるというようなこととなりますから、恐らく6月補正で見てもここよりも前後プラスマイナスぐらいかなとは思いますが、そうなりますと子ども手当分が減になっているというようなことで考えていただければ結構かと思ひます。

【記者】 市長に聞きたいんですけれども、過去最高レベルの平成23年度前算になるんでしょうか。

【市長】 過去最高には、先ほど言いましたようにならないと思ひますけれども、どうしても子ども手当等の前算が今までないようなものがついていますので。それと、先ほど言いました連携大学等々の事業も進んで、議会で議決いただいて進んでおりますので、そういうものを仕上げていこうと思うとそれなりの前算も必要でありますので。最高にどうか、なるべく先ほど冒頭言いましたように歳出も抑えながらいきたいと思っておりますので、それはまた暁以降の話になると思ひますけれども、そういうふうになったときにもいろいろ配慮しながら前算をバランスよく肉づけはしていきたいと思ひます。

【記者】 よくわからないんですが、政策的なことで、子ども手当が上積みになっている、なっていないという話であれば、平成13年度、14年度に制度的になくて前算積みして、今年度以前に前算積みしていないのは何があるんですか、逆に。

【総務部長】 今数字だけで申し上げましたが、4ページのほうですが、このときの数字的に何があったかというのは、今持っております。

【記者】 そうすると、先ほどから言っている子ども手当が云々、外すとかいう話をしておられますけれども、全く無意味なお話ですね。

【総務部長】 その当時の大きな制度改正というのは子ども手当で、16億円もの上積みをしたというのは大きな数字の変化でございますので、それはやっぱり加味すべきかなというふうに考えております。

【記者】 地方交付税に3億円組んでいますよね。たしか交付団体になって、今年度はたしか9,000万円ぐらいだったと思うんですが、それがこれだけ増額になっているということは、要は地方交付税の見込み分3億円ですか。

【総務部長】 昨年も2億7,000万円、当初前算で組ませていただいているんですが、この2億7,000万円というのは特別交付税分です。今回の3億円についても普通交付税分は組ませていただいております。特別交付税分3億円という形で組ませていただいたものでございます。

【記者】 じゃ、一応このままいくと不交付にできると、そういう見通しなんですか。不交付団体になれるという見通しなんですか。

【総務部長】 そういう見通しは持っております。恐らく交付団体のままいくのではな

いかなと思っておりますけれども、額的にそんなに多く、要するに1億、2億という数字は恐らく来ないのかなということで、今回は普通交付税については持っていない。ちょっと見込みが立っていないということでございます。

【記者】 去年も同じことを聞いたかもしれませんが、仮に交付団体のまま継続すると、これにボーナスみたいな形で入ってくるということなんですか。

【総務部長】 例えば税なんかでも、今見込んでいるよりも恐らくたくさん入ってくる。交付税についても今見込んでいるのは、見込み切れないから今ゼロにしてありますが、その分プラスになればそういうことになります。それは今後の歳出の補正予算の財源として使わせていただくということになります。

【記者】 ちなみにコスト削減を図ったというのは、具体的にどんな部分を幾らぐらい削っているんですか。

【総務部長】 トータルでとりあえず3,800万円ほど減になった。これは見直しをして減になったものでございます。全部で件数、事業それぞれ見ますと、件数で28件。一般会計で25件、特別会計で3件、合計28件を見直しをして廃止もしくは減額をいたしております。

【記者】 先日の不適正経理の件で三百何がしの事務費が不適正だったというふうに21年度では出ましたが、不適正ではあったけれども必要ではあったというようなお話だと思っております。新年度の予算で、不適正ではない形で必要なものを、必要な額を充当する必要があるかと思っておりますけれども、今回の骨格もしくは6月の補正のときにどのような形でそれを織り込むのかを教えてくださいませんか。

【副市長】 それは国に返すとか返さないとかそういうこと。

【記者】 ではなく、敦賀市として必要なものを購入したということを一貫しておっしゃっていましたよね。

【副市長】 事務費を別途し、単独費は盛っているかということですか。

【記者】 通年の、例年の予算であれば、21年度で例えれば三百何がしというのは予算の中では出てこないお話だったんですね。国庫から持ってきているわけですね。

【副市長】 国庫補助の事務費を使っている。だから今、言われるのは、それを市単独費の事務費として。

【記者】 そうです。

【総務部長】 今までも予算は、例えば300万円、21年度はございましたが、これの予算はちゃんと歳出予算で300万円組んでありました。約150万円だと思っておりますが、国庫補助金の歳入も組んでありました。それが事務費として不適正な分が300万円見つかったということです。今この中にその300万円なり200万円なり必要な分というのは、当初予算の中に織り込ませていただいています。特に例えばで言いますと、電信電話料がございましたが、この分については国庫を充当していた分については国庫を充当せずに一般財源で持たせていただいている。こういった形での予算化はさせていただいています。

【記者】 技術的なこととお伺いしたいんですが、骨格予算とするときに当初予算から普通は投資的経費の継続事業を除くものなんですか。

それから、先ほど言っていた予算規模、一般会計規模で過去最高じゃないかという指摘を僕はしたいんですけども、平成13、14年度というのは国の経済対策等が打たれて公共工事がかなり多かった年なんですよ。これは除かなければいけない。逆に言うと除いたほうがいい金額があるんだしたら、それを教えてください。

【総務部長】 当初予算で骨格予算といいますと、市長選がございまして、市長選がございまして、どなたが市長になるか。今度来られた方が政策的に掲げたものを予算化して実現していくというようなことでございまして、当初予算にはなるべくそういう政策的な経費というのは盛らないという、これが骨格予算ということで編成をさせていただいております。

それと13年度、14年度、確かに経済対策等もあったかと思いますが、それが幾らあったかということは今ここで数字は持ち合わせておりません。

【記者】 3月補正の中でお尋ねをしたいんですけれども、公共施設の維持補修基金の積立金ということで、10億円と結構大きな金額ではないかなと思うんですが、この金額の根拠というかそういったところと、あと積立金なので前に積み立てた分等があれば幾らぐらいあるのかということをお尋ねします。

【総務部長】 10億円の根拠ということだと思いますけれども、この分につきましては電

源立地地域対策特別交付金の促進対策分を使って10億円を積み立てたいというものでございまして、今後、毎年約2億円ずつぐらいを使用して5年間ぐらいを持つというようなことでの算出をしまして、10億円ということで積み立てをさせていただいたものでございます。

済みません。もう一度、2番目の質問をお願いしたい。

【記者】 積立金ということなので、これまでに積み立ててある分があるのかということです。

【総務部長】 維持補修基金につきましては今回初めてでございまして、別途、条例案も提案をさせていただくということになっております。

【記者】 3月補正でということですか。

【総務部長】 はい。3月議会の3月補正の議決と同じ日にさせていただきたいということで考えております。

【記者】 同じところで質問なんですけれども、これは10億円ですか、積み立ては。10億円というのは、何か余ったから積み立てるんですか。

【総務部長】 先ほど申し上げましたように、10億円、議会でも維持補修基金を積み立てたらどうかというふうな提案もございまして、市のほうから電源立地地域促進対策交付金の促進対策分を申請いたしておりました。その決定もありまして、今回積み立てを計上させていただいたものでございます。

【記者】 関連して、促進対策分、今年度幾ら申請して、そのうちの幾らがこっちに回ったということなんですか。

【総務部長】 22年度の促進対策分は23億6,000万円ほどです。全体の金額で23億6,000万円。そのうちの10億円が今回のこの基金ということでございます。

【記者】 ちょっと聞きたいんですが、23億6,000万円は当初で申請しているということですか。

【総務部長】 申請につきましては、これを含めて当初で申請をさせていただいています。

【記者】 じゃ当初に申請する時点で、最初からこっちに10億円積もうと思ってたのか、それとも別のところに使う用意があつて余ったから10億円こっちに回るのかというのは、それはどうなんですか。

【総務部長】 これにつきましては、この分で幾らの事業費があつて、それに対して幾らを充てるということで事業を特定して申請をしますので、この分については当初から基金に積み立てたいということで申請をさせていただいたものでございます。

【記者】 確認ですが、最初の段階から10億円積むつもりで申請して、それで交付決定がおりたということなんですか。

【広報広聴課長】 ほかに質問はございますか。予算関連。ないようでしたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へ参りたいと思います。

これも最初に幹事社からお願いします。

【記者】 ちょっと先ほど市長のあいさつにもあったんですが、大雪の意見交換会ですが、どなたとどういう話をするのかというのを簡単に教えてもらえますか。

【建設部長】 出席者なんですが、道路を管理されている国道の管理の国土交通省、それから県道管理の県、それから県の港湾事務所、港湾関係、そして除雪業務を委託しております建設業界の敦賀土木協会、それから管工事組合、造園組合の方々と市と交えての意見交換会でございます。それから敦賀警察署の関係の方々でございます。

【記者】 その目的なんですけれども、例えば8号線の大幅な立ち往生とかそういうのがありましたよね。そういう特定の大きな問題があったからということなのか、それとも何かもっと一般的な話、例えば意見とか要望とかを聞く場所なのか。それはどういうことなんですか。

【副市長】 今回かなり県道、国道、市道と狭隘する部分、交差点とか。その部分の関連の除雪のやり方とか、あるいは情報交換が必ずしも十分、国、県、市が情報を共有していたとは思えない部分があるわけです。それぞれが課題を提供して、今後に生かしながら整理をしていこうと。そういう会議の予定です。

【記者】 広島の市長があのような対応で、ご自分の大きな節目のときに記者会見を開かずにYouTubeのようなもので対応されていくというような新しい形の自治体の首長さんが意思表示をされるというふうになされました。私としては別にそれはどちらを望んで

いるというわけでもないんですが、あのような方法での意思のあらわし方について、河瀬市長はどのようにお考えになるかというのをこういう機会に一度お聞きしたいと思いで。

【市長】 今はインターネットの時代ですから、そういうものを上手に駆使されてやっておられる人も、ほかの自治体でも、かなり出る時代になりました。それはそれとして、いいんじゃないかと。私はどちらかといったらアナログ人間ですから、もしそういうことになれば、こうやって顔を見合わせて生身でしゃべったほうが私は。まして広島市というのは非常に大きいですから。100万都市でするので大きいところと私どものような地方都市とでは、また少し思いも違いますが、私はできれば人間でするので生身で、いろいろお話を目を見ながら話したほうがいいなというような気はしています。

【記者】 先日、市議会の特別委員会のほうで前年度決算について不認定にするという結論になっています。恐らく3月議会で正式に決まりますけれども。それについて、市長どう思われますか。不認定になったことについて。

【市長】 これは議会のはっきりとした意思ですから、厳粛に受けとめたいと思います。やはり不適正な経理に対しての職員の皆さん方の意識も、もちろん今私どもも対応してしっかり持っていますけれども、やはり議会の皆さん方にお認めいただけなかったということは、より厳粛に受けとめて、今までどおりにしっかりと対応して、今後二度とそういうことのないように心がけていきたいと思っています。市議会の意思だということをしかりと受けとめたいと思います。

【記者】 その関連で、08年度までは会計検査院が何ぼというふうに言っていたんですけども、09年度分についても300万円という不適正経理分がありました。これについてはどうお考えですか。

【市長】 これはやはりその当時といいますか、職員の皆さん方が、国土交通省も返すのもあれだからちゃんと使い切りなさいというような暗黙の了解みたいなものが当時あったということで、そういう結果になったということでありまして、大変残念なことだと思います。今後はそういうことがないように適正に経理がされることを望んでおりますし、そのようになっていくと確信をいたしております。

【記者】 市長にお伺いしたいんですが、もんじゅで装置の復旧作業もしくは装置を新しくつくる会社というのが正式に決まったみたいなんですけれども、その会社の装置が落ちて、その会社が復旧作業、新しい装置をつくる。このことについてはどう思われますか。

【市長】 私もちよっとその細かい部分は知らなかったんですが、それはやはり経験があるところが反省をして受けたんでしょう。それはどういうシステムで入札して受けているか私も知りませんが、経験のあるところが経験を生かしてしっかり対応するというので、それでいいんじゃないかと思えますけれども。

【記者】 装置が落下した原因は、設計ミスにあるんじゃないかという指摘もあるんですけども、それを踏まえた上で、どう思われますか。

【市長】 逆に言えば、自分のところでやったことに不備があったことを直していくんですから、一番経験を持った者が設計上のミスを認めながら改善をしてやれば、より安全なものになるんじゃないかなというふうに私は思います。

【記者】 市長選を控えてこんなことを聞くのもあれなんですけれども、不適正経理で、公務員の意識というのが使い切らなければいけない、年度内に。多分、市長は政治家だからそういう感覚はお持ちでないと思うんですが、そういう公務員的な悪しき脈々と受け継がれている意識というのをこの間、常任委員会では変える、システムも変え、意識も変えるというふうに市は言っていますけれども、どのように市長として変えていかれるのか、どこをどうさわれば意識は変わるとお思いですか。

【市長】 これはもうやはり、これだけの事案が出て、それぞれ委員会でも否決をされ、そのこと自体がもう既に職員の皆さん方の意識、十分変わってきていると思います。当然、私ども、副市長を初め幹部の皆さん方も職員の皆さん方に対して、そのことは十分伝えていると思いますので、こういうことが要するに会計検査院が入って出た時点から、当然変わってきていると思いますし、これが出て変わらない職員というのはいかがなものかなと思いますので、それはしっかり徹底されてきていると思っております。

【記者】 昨日、福井市であったガス爆発についてなんですけれども、敦賀市ではそういった工事の際、届け出のどうこうという話はどうなっているのかということと、福井市で

あったことを受けて、何か動きというのはあるのでしょうか。

【総務部長】 福井市につきましては、ガス事業につきましても市でやっていらっしゃいます。敦賀の場合には、市がやっておらずに、その部分については民間がやられているというようなことで、市には一切そういう届け出等についてはありません。

【記者】 敦賀ガスさんとかそういうことになるんですって。民間って。

【総務部長】 敦賀ガスです。

【記者】 あれを受けて、特に敦賀市としても動くことは特にないですか。

【副市長】 行政上の手続きとしては、市へのものはありません。

【市長】 消防に対しては、いろいろな手続きがあるかと思います。そういう動きがあるかないか、消防に確認をしたほうがいいかと思うので、後ほどでもいいですか。

【記者】 最初の話で、除雪の話なんですけれども、かなり道路河川課を中心に頑張っていると思うんですけれども、やはりかなり除雪が遅かったような印象を受けているんです。市のほうにも1,000件以上の苦情が寄せられたということで、いろいろ公共事業が減ったりして、除雪車が足りないとかいう事情もあったかもしれないと思うんですけれども、市長がおっしゃるように敦賀は敦賀港を中心とした物流拠点を目指していたり、交流拠点を目指したりする中、ああいうふうな交通麻痺が発生するとすると、やはり、いろんなことに影響したりするのではないかと思うんですけど。今日の除雪意見交換会に出るかもしれないんですけれども、あらためて今後の体制づくりとか、そういったものに対して、どういうふうなお考えをお持ちですか。

【市長】 おっしゃるとおりでありまして、私ども今いろんな企業の皆さん方等も訪問しながら、その対応等、またいろいろお困りになったことがあるというふうに思いますので。一般の市民の皆さん方からもそういう苦情をいただきましたけれども、企業活動をやっていて、例えば品物を何日までにそこに搬入しなくてはならん。さあ出ようと思ったときに道路が止まってしまった。ある会社では、福井方面へ全く行けませんから小浜まで出て、何とか出て、そして大回りして名古屋へ行ったという企業もありました。そういう中で、何としてでも高速道路だけは止めないでくれというような話も出ておりましたし、一般的な苦情の中には、遅いというのと。ただ自然相手なので、例えばある地域は朝2時ごろから降り出しました。恐らくあの雪は1時間に5センチ以上、しんしんと風なく積もったものですから、一回除雪に入ったところがもう既に数時間後には一緒の雪になっていたんです。雪というのは、ご承知のように大体本町1丁目から2丁目と降ってくれんです。いっときに降りますから。限られた台数の中で同時に、前も言ったんですけれどもペイが2,000台あって、みんな同時に動けば除雪できると思いますけれども、物理的な問題もありますので、すべてが皆さん方が雪降って大丈夫やったなということは恐らく永遠の課題だというふうに私は思っているんですが。ただそういう中でも幹線なり、それと敦賀は気象的に難しいのは、昼暖かくなって圧雪が緩むんです。一時的に緩む。そこへチェーンはいた車が通って穴を掘る。わだちができる。朝になると冷え込んで、凍結する。ペイがもう通らない、歯が立たない状況ができるという自然状況のいろんな違いがあるものなので、それをすべて100%解決するということは、先程言いましたように不可能であります。やはり幹線を。じゃどこをまずやっていくか。それと、業者の皆さん方もそれぞれ地域別にペイを配置しておりますが、そこから出ていく状況の中で、幹線をもしあるなら先に行ってもう一回回るとか、そういうやり方を、意見交換会で打ち合わせをしながら、今回の反省点としてそれを次に生かしたいと思っています。

【記者】 幹線道路というのは、いわゆる北陸道、高速道のことを指すんですか。今回も、いつもそうなんですけれども北陸道が麻痺すると、次に8号線というのは毎回の話なので。今、産業団地がこの間、日本ゼオンさん来られましたけれども、そういうふうな企業誘致とかにも気象条件が影響する恐れも考えられないこともないので、それは北陸道の例えば止めないとか、そういうふうなことを望まれるということですか。

【市長】 西日本高速道路さんなども、皆さん方も走ったことあると思いますが、雪が降っていると何台か並列してスピードを出さないように除雪しながらずっと走る体制をとっていましたが、今回もそういう体制をとっていただいたんですが、何せいつときに降ったもので少し対応ができなかったこともあるというふうに思います。それを含めて、企業の皆さん方がおっしゃるのは、高速か8号線、片方はいいですけどもどっちかが通行できる体制をぜひとっていただきたいということを切に言っておりましたし、今おっし



やるとおり企業誘致するに当たっても、雪でこういうことで出荷が遅れたりするというのは非常にマイナスになりますし、実際、船もコンテナ船が、着いてはいたけれども除雪ができてなくて揚げられなかったということも伺っています。これは敦賀のみならず、金沢、富山で2日ずつ遅れては来たんですけども、そういうともかく物の流れのところを基幹的なものだけをいかにして守っていくかということが大事だなということを確認しましたので、そういうことを含めて、これから国、県といろいろお話し合いもさせていただきながら、今後の対策に生かしたいなと思っています。

【記者】 今回の大雪に関しては、除雪のスピードというのもそうなんですけど、どちらかというと民間のトラックが例えば立ち往生したりとか、それで道路が止まったりするケースが結構あって、要は1台止まっちゃうと、もうそこで後ろが全然つかえるというのが。例えば鳥取でもそうですし、ここの8号線でもそうだと思うんですが。例えば行政として、改めて民間業者に必ずチェーンをはくようにとか携行するようにとか、冬期の場合には何かそういうお願いしますとか、そういう利用者に関しての要請みたいなものというのはされるおつもりはありますか。

【市長】 これはおっしゃるとおりでして、やはりトラックなり車に乗られる方も自己防衛的な形でそれをやっていただきませんと、そういうトラブルが発生します。特にトラック協会の皆さん方でありますとか、またそういう関係の皆さん方。やはり冬道を走るときの心構えといいますか、そういうものは今まで以上に持っていただくようお願いはしていきたいなというふうに思います。また冬用タイヤの着用ということで、高速道路でもこれだけの大雪じゃなくても、雪が降ると追突事故とかいろんな事故が多く発生を実はしておりますので、これはドライバー一人一人の意識の問題だというふうに思いますから、ぜひそのあたりも含めて、全体で取り組む。ただ除けるだけが能じゃなくて、まずそういうことにならないような体制をとることも市民一人一人の意識の問題だというふうに思いますので、そういうことも教訓に踏まえながら、ぜひ関係のところにもそういうお願いをしかりしたいと思っています。

【記者】 全然違う話なんですけど、日本海側拠点港のことなんですけれども、これは敦賀市、応募するというところでよいかとは思いますが。敦賀港を。応募する予定かなと思うんですけども、26港を候補に絞って、実際何港選ぶかという話は前回、国のほうはしてないと思うんですが、市長の希望でどれぐらいがいいのかなというのがありますか。

【市長】 政務官のお話では、0から26ですというようなお答えがありましたので、なんともわからないところでありあすけれども、その中に、ぜひ敦賀港が入るよというところで、しっかり手を挙げながら、また先日お見えになったときにはアピールをしたところでもありますので。希望とすれば、何港になるかわかりませんが、その中に敦賀港が入るということを希望しています。

【記者】 これは県のほうが主なのかもしれないですけども、戦略の会議を大分前にやって、第2回が開かれてないと思うんですが、どうなっているかわかりますか。

【産業経済部長】 戦略会議というよりは拠点港の計画といいますか、福井県と敦賀市、関係団体が集まって、どういうふうな計画で国のほうへ申請していったらいいかという会議はやっておりますし、前回は実はありましたので、やってございます。

【広報広聴課長】 そろそろお時間なんですけど、もうないでしょうか。

ないようですので、これにて3月の定例記者会見は終了させていただきます。

ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後2時26分 終了